

会議名	第31回日本短角種研究会
開催日時	平成16年11月18日 13:00-17:00
開催場所	秋田県鹿角市湯瀬温泉（姫の湯ホテル）
主催者	日本短角種研究会（事務局：東北農業研究センター畜産草地部）
参加人数(概数)	70名（別添参加者名簿）
1. 会議の概要	<p>会議はシンポジウム形式で行われ、テーマ「日本短角種の認証を考える」のもと、次の4人のプレゼンテーションと質疑討論が行われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本短角種 ISO9001 取得について 岩手県畜産課 遠藤明人 2. 大地が考える認証と[THAT'S 国産] 大地を守る会 吉田和生 3. 日本短角種牛肉の特徴について 北海道農業研究センター 上田靖子 4. イタリアスローフード大会報告 東北農業研究センター 東山雅一
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる発表課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本短角種 ISO9001 取得について 顧客の望む[自然、安全、安心]に則した飼養管理を行うことを目標に、放牧の促進、自然交配の推進、遺伝子組み換え飼料や抗生物質を含む飼料を給与しない、などを品質目標に掲げている。事業実施主体は岩手県短角牛振興協議会であり、認証取得経費を県から助成を受けて、平成15年に取得した。速効性を求めるものではなく、長期的観点から短角の評価を高める一つの取り組みとしている。効あることを期待する。 2. 大地が考える認証と[THAT'S 国産] 大地を考える会は抗菌性物質の飼料添加排除、ポストハーベストフリー・遺伝子非組み替え飼料の確保などの取り組みを行ってきた。現在「THAT'S 国産」の取り組みをしている。飼料穀物[国産100%]で生産される畜産物として、岩手県山形村の短角、仙台黒豚会の黒豚、北浦のシャモ肉などがある。有機畜産物 JAS は安全性を保証するものではないが、この制定が環境に配慮した畜産業界全体の取り組みに貢献することを期待すると述べた。 これについて、岩手県山形村の生産者から発言があり、純国産の飼料で肥育を行っているとのことであるが、かなり高価な飼料になるであろうとの懸念を筆者はもった。

	<p>3. 日本短角種牛の特徴について</p> <p>発表者は本年9月まで東北農業研究センターにおいて研究に従事してきた。短角の肉の分析結果には新規な情報は認められなかったが、フランスにおける農産物認証制度としてAOC（原産地呼称制度、ワイン、チーズに多い）や、Label Rouge（生産者、消費者の満足のために、生産過程、生産地、屠畜方法など100項目以上の基準に合格したものを認証する）についての紹介が興味深かった。短角の肉に関連したコメント（東北農研 渡辺 彰室長）では、放牧によってカルニチン、共役リノール酸含量が増加すること、筋肉内脂肪含量が20%を超えると、水分含量の減少は限界に達し、蛋白含量が減少することが紹介された。</p>
3. その他の発表	<p>1. イタリアスローフード大会報告</p> <p>イタリアに本部を持つスローフード協会（NPO）が今年10月に開催した集会に参加した報告。130カ国・地域の1200団体、4300人が参加した。日本からは19団体、73人が参加。岩手県の短角生産者も参加。</p>
報告者	松川 正

会議名	平成16年度日本短角種産肉能力検定検討会
開催日時	平成16年11月19日 9:30-11:30
開催場所	秋田県鹿角市湯瀬温泉（姫の湯ホテル）
主催者	家畜改良センター奥羽牧場
参加人数(概数)	28名（参加者名簿別添）
1. 会議の概要	<p>この検討会は、日本短角種の種雄牛を生産または利用する関係者が集まって、利活用の現状や、検定に当たっての技術的問題を討議する場である。</p> <p>議事では、1. 種雄牛の利用状況、2. 検定成績の報告、について北海道（資料のみ提出）、青森、秋田、岩手、奥羽牧場から報告があった。</p> <p>短角は北海道、青森、秋田、岩手にほぼ限局して飼育されているが、繁殖牛頭数が少ない北海道、青森、秋田では種雄牛の選抜事業を取りやめている。奥羽牧場も取りやめを検討しているようである。従って、短角の改良に力を入れているのは岩手県のみとの印象であった。ちなみに会議の席における報告では、青森県内の繁殖牛頭数500、秋田県250、岩手県4000程度になっている。</p>
2. 関心のあった発表	<p>岩手県からは、短角にかかるデータベース構築の作業が進んでいることが紹介された。枝肉成績、血統、血液サンプル（DNA）等を収集してデータベース化し、これを岩手県畜産研究所が外部の研究機関の協力も得つつ解析し、情報を生産者に戻すと言うものである。責任機関は岩手県畜産研究所である。あまり予算をかけないで何が出来るか考えた所産である旨県の担当者から説明があった。このような地道な努力が県内の短角振興に大きく貢献することを期待してやまない。</p>
報告者	松川 正